

- ⑤ 社会の中には、様々な点で健常者との差がある。当事者になってみて、初めて分かることがある。健常者にも同じレベルに立って考えてもらいたい。
- ⑥ 災害時の訓練を行った際に、健常者中心に話が進められており、障がい者は足手まといになるだけというような印象を受けた。一番困っている人を中心に考えていない。弱い立場の人の話が積み上げられておらず、意見を言うと「後から考えるから」と言われた。
- ⑦ 防災の取り組みで、障がい者とコミュニケーションをとって考えましようという流れがないことが残念。
- ⑧ 手引きを申し出てくれる人の中に、良い方法がわからず、正面から手を持って引こうとする人がいる。そうされると、当事者は怖いと感じてしまう。腕を持つ方が安心。学校教育の場で視覚障がいについて、教えてほしい。
- ⑨ ヘルプマークの普及が十分に進んでいない。持っていて役立っていない気がする。

3. その他

- ① 明石市でどのように条例がつけられていったのか、分析する必要がある。条例検討を、手話言語とコミュニケーション支援を混在させた中で進め、市民に広めていくためには、実際コミュニケーションをとっていくことの積み重ねが大事。
- ② 生きた条文をつくるには、つくる人と意見を言う人が必要で、その過程が大事。障がい分野だけでなく、自治振興課や教育委員会とも連携してほしい。
- ③ 当事者の想いは、直接聞かないと、なかなか伝わらない。